



中国 岭后園 ワークキャンプ 下見報告



9日	成田→広州	広州
10日	ヤンカン訪問	広州
11日	広州→潮州へ移動	潮州
12日	リンホウ訪問	潮州
13日	韓山師範学院訪問	潮州
14日	潮州→広州へ移動	広州
15日	広東外語外貿大学訪問	広州
16日	広東商学院訪問	広州
17日	広州→成田	帰国



中国ワークキャンプ 下見報告

日程：2002年9月9日～17日

キャンプ地：ハンセン病療養所「リンホウ園」(広東省潮州市潮安県古巷鎮)

スタッフ：中村博志・西尾雄志・原田僚太郎・茂木亮

現地コーディネーター：HANDA

もくじ

リンホウ 岭后村訪問	2
リンホウ 岭后の人々	4
ヤンカン 楊坑村訪問	5
HANDA 紹介	6
中国のハンセン病	6
中国の大学でワークキャンプの呼びかけ	7
参加者募集	8

予定では、11月に「便所キャンプ」、3月に「水道キャンプ」を2週間ほど行ない、8月には約1ヶ月にわたる「長屋キャンプ」を開催する。

また、中国人学生のキャンパーを募集するため、13日に韓山師範学院、15日に広東外語外貿大学、16日には広東商学院を訪問し、学生にF・W・Cのワークキャンプやハンセン病について説明した。何人かの学生はキャンプに参加すると言っている。

7月に新キャンプ立ち上げの準備をはじめ2ヵ月。スタッフは9月9日、中国を訪れた。12日には、中国のハンセン病支援NGO・HANDAの案内で潮州のハンセン病療養所・リンホウ園を訪問し、園の生活状況やワークの内容について在園者と話し合い、老朽化した長屋の建て替え・水道の整備・トイレの設置をおこなうことになった。

中国へ

リンホウ 嶺后園訪問

12日、朝9時。潮州市内のホテルを出発し、雨がしとしと降るなかHANDAの車で20分走ると街並みが切れ、山道に至る。車体が「テーマパークのアトラクション」（中村）のように揺れる山道を15分いき、トンネルを抜けると、きれいな白壁がみえてくる。医療スタッフがはたらいっている場所だ。HANDAの医師・陳志強（マイケル・チャン）先生からのメールでみた荒れ放題のハンセン病療養所・リンホウ園は、さらに5分登ったところにある。

リンホウの生活環境

リンホウ園―正式には「リンホウ医院」―は1960年に設立され、最大



リンホウ医院の医療スタッフのいる建物

で300名が入所していた。現在は46歳から78歳までの14名が住み、全員治療している。しかし在園者は高齢で後遺症がひどく、1人で生活するのは難しい。自由に歩き回ることができるのは2名だけで、彼らが身体の不自由な在園者のために井戸水を運び、4km離れた小さな町まで自転車で買い物にく。この仕事の労力は大変なものだ。というのも園の敷地は広大で、在園者はそれぞれ離れて住んでいるからだ。

リンホウ園の家屋は築40年以上で老朽化が激しく、木造建築なのでシロアリ被害で倒壊のおそれがある。瓦ぶきの屋根には穴があり室内から空が見え、雨漏りがひどい。園には比較的新しい、8つの部屋がある長屋A（村の見取り図参照）がたっているが、夏は室温が上がりすぎて使えない上に部屋数が多いため、在園者は倒れそうな古い家に住んでいる。ただ台風ときはその新しい長屋Aに避難する。

飲料水には井戸水をつかっているが、にぎっている上にアルカリ性がよく、お茶が黒くなる。井戸は広い園に1つしかなく、足が動かない在園者が自力でくみにいくことはできない。トイレもないので、それぞれ自宅のちかくのしげみで用をたしている。



触ただけで壁が崩れる長屋B

政府からの生活補助は1人当たり1ヶ月120元（1元＝約15円）で、食費ですべてなくなってしまう。

ワーク

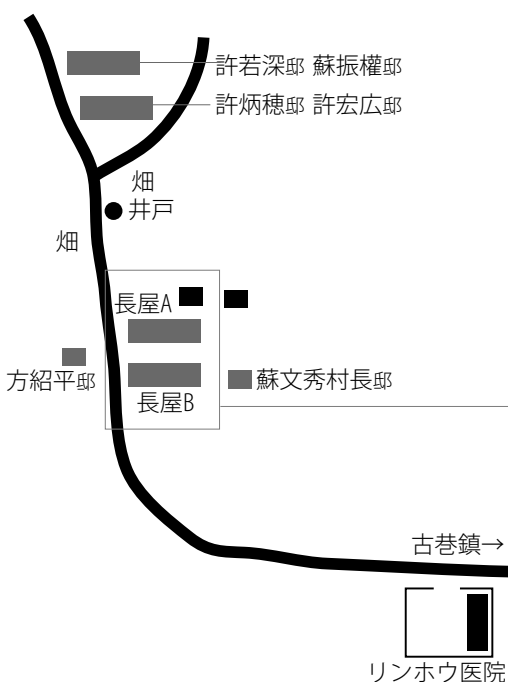
家屋建設・水道整備・トイレ設置

在園者14名が1ヶ所に住むことができる、水道とトイレをそなえた23m四方の「コ」の字型の長屋を建てる（設計図参照）。建設予定地は長屋Aのある場所だ。その長屋Aを「コ」の字の一辺として活かし、今回は倒壊する危険がある長屋Bを取り壊して新築する。すでに建っている長屋Aには断熱システムを設置し、夏に暑すぎるとい問題点を改善する。長屋Bの部屋数は7で、在園者14名はそれら2つの長屋A・Bに1人1部屋で住む。1つある部屋は共同の台所になる。また長屋A・Bをつ



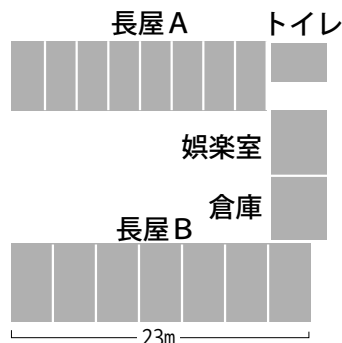
ポンプが壊れている村で唯一の井戸

なぎ「コ」の字を完成させる3部屋は、倉庫・娯楽室・トイレになる。水道設備は、井戸水をためる貯水タンクをつくり、フィルタで水をろ過し、そこから水道をひくというものだ。



長屋A（8部屋）には断熱システムを設置し、夏に暑すぎるとい問題を改善

倒壊のおそれがある長屋Bを取り壊し、長屋B（7部屋）を建設



村人14名が1人1部屋でまともに住むことができる、23m四方の「コ」の字型の長屋

ニーズ充足度

このワーク計画は果たして在園者の必要に應えることができるのか。確かに倒壊するかもしれない家に住みつづけるのは問題だが、彼らにはそれまでに築いてきた生活様式がある。それを壊すことに抵抗を感じる在園者はいないのだろうか。

① 食生活の変化

この計画実行後、在園者は共同の台所を使って全員の食事を作ることになる。ここで問題なのは、彼らの食生活がかわるということだ。米が好きな人、イモが好きな人といういろいろいるので、現在は原則として各自が自分の嗜好にあわせて料理をしている。蘇園長によると、皆と同じものを食べなければならぬことに抵抗を感じる在園者がいるかもしれない。それに対しマイケル・チャン先生は、協力して助け合いながら料理することの必要性や楽しさを強調し、どうしても食生活をかえたくない人は現在も各自つかっている七輪で料理することを提案した。園長は在園者と話し合うといっていた。

② 郭さんのバイト代

郭さんはこの計画に反対した。というのも、彼は水くみや買い物など身体の不自由な在園者の手伝いをするこ

るからだ。この意見には驚かされた。広大な敷地にバラバラに住む在園者のところへ水を運ぶのは、郭さんにとつてたいへんな仕事というよりは、むしろ大切なバイトなのだ。マイケル・チャン先生は、水道設備の整った家ができて、身体の不自由な在園者のためにできることは買い物などたくさんあることを強調し、彼をなだめた。

③ 住環境の改善

蘇振權さんは何もかも他人に頼り、自活できないことがいっばん苦しいと語り、車椅子とそれが使える環境を望んだ。許炳穂さんは一人で料理するのがたいへんなので、共同の台所があるこの計画に賛成した。またトイレも必要だといっていた。



キャンプ日程・ワーク内容の予定

2002年11月 トイレ設置、断熱システム、
長屋Bの解体
2003年 2月 貯水タンク設置・水道整備
8月 家屋建設

長屋B、倉庫、娯
楽室、トイレのお
おまかな設計図

キャンプ予算

ワーク費（現在交渉中）

家屋建設	178.0万円
水道整備	5.6万円
トイレ設置	7.0万円
合計	190.6万円

収入（予想額）

キャンプ参加費 (40人×3万円)	120万円
助成金	50万円
カンパ	25万円
合計	195万円



畑では野菜を育てている

リンホウ 岭后の人々

在園者の家を一軒ずつ訪問し、話を
きいた。通訳はHANDAのマイケル
IIチャン先生。



郭联浩 (46)

最年少の郭さんはいつも薄茶色のパ
ンツいっちょ。眼光がすごい。雨
のなかカサもささず、終始淡々とし
ている。後遺症がほとんどない彼は
からだの不自由な在園者の世話をし
ている。薪を割り、水をくみ、4 km離れ
たふもとの町まで自転車で買い物に
いく。それに対する少額の礼金を在園者
から得ている。近くには彼の畑があり、
サツマイモが植わっている。あいさつ
して握手すると、「きてくれてありが
と」といってくれた。



蘇文秀 (74)

蘇さんはリンホウ園の園長。マイケ
ルIIチャン先生がF-WCのスタッフ
を紹介すると、園長は「カムシヤ、カ
ムシヤ（感謝、感謝）」を連発。彼は
1979年右足を切断し、今もそれが
痛むので、何もできない。スタッフは
よく村長のところに顔をだしてくれる
といい、黄・リンホウ医院院長とは仲
がよさそう。園長は「もう園長とい
う役職につかれたので誰かにかわって
ほしい」と語り、あまり元氣な様子で
はない。「He doesn't have any hope
in the future. (希望がまったくない。）」
というマイケルIIチャン先生の英訳に
衝撃をつけた。



許炳穂 (70)

むかしは歩きまわって薪を集める
ことができた許炳穂さんは足が痛むよ
うになり、今はできない。トイレにい
くのも一苦労。新集合住宅の建設計画
を話すと、料理をしてくれる人が必要
なので、トイレもある家に1ヶ所に集



許宏広 (75)

まって生活するほうが便利だと賛成し
た。許さんは、「ありがと。お体に
気をつけて」と、スタッフの心配をし
てくれた。

許宏広さんの左足は完全に腫んでお
り、包帯にまで腫みがしみていて、
足の筋肉がほとんどない。「痛い、カ
ネない、薬ない。これから死ぬんだ」
といっていた。彼はリンホウで最も身
体が不自由で、もちろん歩くこともで
きない。許炳穂さんが彼のために料理
をしている。ときどき消炎剤をもらう
が無意味だという。彼は話ながら何度
も何度もため息をつく。希望がなく、
つかれきっている様子だ。握手をする
と、許さんは力なく笑った。



蘇振權 (74)

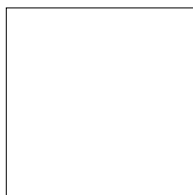
蘇さんは歩けないので、郭さんが1
日4杯バケツで水をはこんでくれる。
屋根は雨漏りする。F-WCが何を手
伝うといいかたずねると、「何をして



氏名不詳

ほしいか、何を望めばいいかわから
ないくらい、何もかもがたいへんだ」
と彼はいつた。さらに話し合つうち、
「おなかいっぱい食べたい」、「歩けな
いために他人に何もかも頼る生活がい
やなので、車椅子とそれを使える環境
がほしい」という要望がでた。4人の
スタッフは各自名前を紙に書いて彼に
わたした。漢字文化圏のいいところだ。

蘇さんの部屋の前に1人の在園者が
いた。彼の名前はききそびれてしまっ
た。左右の指はまったくないが、足は
健康。政府援助は月に1200円で、米
や肉を買ったらそれでなくなってしまう。
また、医者に診てもらったためのお
金も必要だ。彼の家も雨漏りしている。



許若深 (69)

許若深さんに目立つ後遺症はほとん
どないが、左足に赤いビニール袋でつ
くった長靴をはいていたので、大きな
傷があるのかもしれない。白髪がきれ



方紹平 (68)

い。彼の部屋の天井からは空が見える。
彼は女性の在園者ふたりの世話をし
ており、部屋の壁には「中国3大美人」
の写真をはっている、かわいいおじい
さん。彼は28歳のときリンホウにきた。

「おつかれさま！若いねえ！」
部屋に入るなり、間寛平を細くした
ような方さんに歓迎された。彼は歩く
ことができるが、「角膜潰瘍」で両目
があまり見えず、自転車での買い物は
できない。いちばん大変なことは何か
とたずねると、「たくさんありすぎて
いえない」と語った。最後には「おつ
かれさま！」と元氣に見送ってくれた。



質問に陽気に答える許炳穂さん

ヤンカン 楊坑村訪問

スタッフは10日、楊坑村に向かった。村までのガタガタの山道はなつかしく、苦にならない。西尾と原田は2月、楊坑村にシャワー室をつくるキャンプに参加し、ここを何度も耕運機で通っている。10時30分、村に到着。在園者は予想以上に歓迎してくれた。彼らは「F・W・Cが楊坑村にくる」とHANDAにきいて以来、楽しみに待っていてくれた。



ヴィヴィアンさんが流暢な日本語で通訳をする

ヤンカン 楊坑村の生活状況



鶏をさばいてお昼ご飯は鶏づくし

平均年齢67歳、最高齢87歳の村人34名は約50m四方の敷地にたつ「コ」の字型の長屋に住んでいる。F・W・C関西委員会は韓国のピースキャンプとともに2001年に食堂と台所を、2002年にシャワー室をつくった。政府からは1人当たり1ヵ月150元が支給される。HANDAはひとりあたり1ヵ月30元を支援してきたが、財政難により2ヶ月前から打ちきりざるを得なかった。IDEA (The International Association for Integration, Dignity, and Economic Advancement 共生・尊厳・経済向上をめざす国際ハンセン病患者・回復者協議会) の中国支部でもあるHANDAの経費は、IDEA本部やALM (American Leprosy Mission) からの支援に頼っているが、財政的に苦しい状態がつづいている。多くの村人がブリキの義足（装着感がわるい）をつけており、後遺症は重い。

シャワー室ワークの評価

何よりも先に2月のキャンプでつくったシャワー室を見にいった。やはり、床のタイルがはがれている。というのも、タイルと床をくっつけるモルタルに粗い砂利を混ぜてしまった上に、時間がたたりず一晩でタイルをはったからだ。大きく3ヶ所、コンクリートむきだしの部分が広がり、奥の貯水槽の近くには壊れたタイルの小山ができています。シャワーの頭の部分がとれているものもある。欧鏡剣・ヤンカン村代表によると、さいわいタイルでのケガは今のところないとのことだ。「モウマンタイ！（問題ない）」と村人は明るくいつていた。

ハンセン病快復者は後遺症で末梢神経が麻痺していることがあり、傷をつくっても痛みを感じず、それに気づきにくい。傷は悪くなる一方で、足を失うこともある。彼らが裸になって使うシャワー室のタイルがはがれ、それが体を傷つけるということはあってはな



タイルは剥がれていた・・・

らないことだ。シャワー室の修理に関する村人の提案は、タイルを新しくはりかえるのではなく、残りのタイルをすべてはがし、コンクリートむきだしの状態にするというものだ。彼らが警戒しているのは、シャワー室ですべて転倒すること。早急に修理しなければならない。その他のシャワー室の問題点としては、湯温調節がしにくいことだ。2月に設置したソーラーシステムの湯は、暑い夏には熱く、寒い冬には冷たい。そのため、夏はシャワーから出る熱湯をバケツにため、水をくわえて適温にしてから使っている。シャワーとして機能していないのだ。このように使うためにはシャワーの頭の部分はむしろ邪魔なので、はずしてしまった。気候が適すればシャワーとしてつかえるが、その効果を最大にするためには、水と湯を混ぜられる混合栓をつけることが必要だ。



多くの村人がブリキの義足を付けている

欧鏡剣代表のことは

11時ごろから食堂に村人が集まりはじめ、あらためてF・W・Cのスタッフの自己紹介が始まった。通訳は広東語・北京語・英語・日本語をあやつるHANDAの彭惠華（ヴィヴィアンIIさん）さんだ。いきなり、欧鏡剣代表が語り始めた。

「ハンセン病患者は中国人から忌避されてきた。それにも関わらず、日本人が（2月のキャンプで）10日間もいっしょに友達のように暮らしてくれたのは想像すらできないことで、私の人生にとって意味があることだった。みんな別れのときに泣いたことがそれを示している。またきてくれることを皆が期待していた。ワークをしなくても、ただきてくれるだけでもうれしい。いつきてもいい。泊まるのも構わない」（要約）。



2001年のワークキャンプで作った台所

HANDA紹介

HANDA

1996年設立のNGO (Non-Government Organization 非政府組織) で、IDEAの中国支部でもある。「HANDA」という名前の由来は、ハンセン病の病原菌を発見したノルウェーの医師・ハンセン (Hansen) と、ハンセン病問題に一生をささげた神父・ダミアン (Damien) だ。設立目的として、ハンセン病問題に直面する人々をはじめ、人類すべてのあいだで尊厳を促進することをかかげている。

HANDAはハンセン病快復者に対し、4つのリハビリー肉体的・経済的・社会的・心理的リハビリーを行っている。義足の提供や経済的支援だけでなく、国際交流などを行い、差別によってできた心の傷を癒すリハビリーをしている。それにより社会的烙印 (スティグマ) を消し去り、快復者の社会復帰を促し、一般社会との統合をはかることがHANDAの最終目的だ。現在はこれらのリハビリーが不足しているために、村にとどまる快復者が多いという。

今回協力してくれたおもなHANDAのスタッフ

Dr. 楊理合



HANDAの設立者 (1996年) でIDEA中国支部のコーディネーター。40年以上ハンセン病に関わっている。

Dr. 陳志強



(マイケル・リチャ) HANDAのコーディネーター。潮州語・広東語・英語を話す。

彭惠華



(ヴィヴィアン・パン) HANDAのアシスタントコーディネーター。広東語・北京語・日本語・英語を話す。

HANDA義足・靴工場

2000年設立。広州付近の村17ヶ所の快復者に3000足の靴をつくった。ここで生産される靴は各人の足裏の傷にあわせて靴の中敷を加工してある。ヤンカン村の人たちは金属製の義足をつけているが、ここでつくっている義足は装着感のよい樹脂製だ。ふつう片足分の義足をつくるのに1週間かかるが、ハンセン病快復者の袁亜華さんは3日でつくる。袁さんはスタッフ

フの中村とならんでもひけをとらないほど体格がよく、若い。大きな声で工場を案内してくれた。他にも女性・男性2人ずつがはたらいていた。

義足の原価は1足600元だが、それを最高5元で在園者に提供する。HANDAとしては無償で提供したいが、なかには義足を粗末にあつかう在園者もいるので、わずかではあるが彼らにも負担してもらおう。経費は障害者組織の支援に頼っている。



義足工場は快復者の社会復帰の場になっている

キルティング工場

HANDAは「The HANDA Quilt Project」(HANDAキルトプロジェクト) を1997年に設立した。その目的は、ハンセン病快復者がキルティングの製品をつくり販売することによって自尊心を得、また生活水準を向上させることだ。

この工場では、快復者やその子供(すべて女性)がキルティングの敷物・バッグ・エプロンなどを伝統的手法で

つくっている。また江西省や広東省では、24名が自宅で作業している。

ハンセン病国際女性会議(2002年6月、ニューヨーク)に中国代表として出席した楊久妹さんは、HANDAで働く前の生活は苦しかったと語った。呉沢芳さんは独学で読み書きと簿記を学び、工場の事務をこなしつつ、夜間学校でデザインを学んでいる。夢はデザイナーだ。

最近海外からの注文も多くなり新製品がぞくぞくと登場している。人気商品は、パンダ模様の製品。後日たくさんさんの製品を買い、日本で販売することにした。(…が、買い忘れたことを帰国後に気づいた…)



針を進める姿は真剣そのもの



"HANDA QUILTS"

中国のハンセン病

中国のハンセン病には2000年の歴史があるが、政府が政策としてハンセン病対策に乗りだしたのは1960年のことだ。隔離政策。1982年以降はその政策を転換し、多剤併用療法(MDT)による早期発見・早期治療。在宅治療をおこなっている。ハンセン病の症例は1950年から2001年までに50万発見されており、現在は陽性患者が6325名いる。

中国のハンセン病は広東省にもっともおおく、62の村に9万4000の症例が発見されている。楊先生はそのうちの30の村をまわっており、うち8名が陽性だ。省別には以下、江蘇省、山東省、雲南省、四川省とつづく。症例は南部諸省に多い。

中国では早期発見・早期治療により患者は減少した。しかし患者の50%が家も身寄りもない人たち、あるいは家族にその社会復帰を拒否されている人たちであるため、療養所にとどまっている。本来なら社会復帰できる快復者も差別をつけ、80%が療養所にとどまっている。差別は特に田舎でひどい。情報や教育の不足からくる非科学的差別だ。都市では学校教育、新聞、テレビによる啓蒙活動が増え、薬も発達したため、差別は減ってきている。

中国の大学で ワークキャンプの 呼びかけ



ワークキャンプに興味津々の日本語学科の4年生

スタッフは潮州師範学院（13日）・広東外語外貿大学（15日）・広州商学院（16日）でキャンパーを募集した。勉強・実習・就職活動にいそがしいという学生が多かったが、キャンプへの参加を約束してくれた学生もいる。ほとんどの中国人学生はボランティアに関心がないという。中国社会におけるハンセン病差別も強い。そのような状況にも関わらず、中国人の学生がキャンプに参加すれば、人々のハンセン病に対するイメージは確実にかわ



英語学科の学生は女の子ばかり、男は3人だけ

り、隔離されてきた療養所が社会にひらかれていく1つのきっかけとなるかもしれない。また参加する学生は、ハンセン病療養所で快復者と寝食をともにすることで、自分の身体で多くのことを直接に感じとるだろう。

韓山師範学院

スタッフは13日、HANDAのヴィアン・パンさんと共に、潮州にある韓山師範学院の英語学科の学生約60名を前にキャンパーを募集した。この学生はリン・ホウ園の人と同じ潮州語を話すので、通訳をかねて参加してもらいたい。

この学校にはコネがまったくなかったが、11時すぎに教員の事務室に乗りこむと、許偉程先生という日本語教師に会うことができた。許先生の許可をえて、西尾が英語学科の学生約60名に對し授業終了後（16時45分）キャンプの説明をすると、質疑応答は約30分に

およんだ。マークくん（4年生）とその友人は11月1〜6日ならキャンプに参加できるというっている。

広東外語外貿大学

スタッフは15日、広州にある広東外語外貿大学でキャンパーを募集した。日本語学科の4年生・尖学清くんがヴィアン・パンさんの友人の知り合いだったため、彼をはじめ日本語学科の学生6名と会うことができた。

大学の食堂でキャンプについて日本語で説明した。学生たちは特に感染に対する不安を抱いていたので、在園者の菌は陰性であることをはじめ、ハンセン病についての正しい知識を伝え

た。尖くんは潮州出身で潮州語と日本語を話す。彼には在園者とのコミュニケーションの仲立ちをしてもらいたい。また彼にキャンプのビラを渡し、他の学生にも参加を呼びかけてくれるよう頼んだ。



西尾が英語で説明、原田の英語はパカウケ



財布を無くして説明どころではない原田

帰り際、宋亜梅さん（4年生）は「中国でボランティアをしてくれてありがとう」といった。彼女によると、中国の学生でボランティアをする人はあまりいない。学生は時間がないそう

広東商学院

16日には広州の広東商学院でキャンパーを募集した。今回の募集の機会をつくってくれたのはHANDAのマイケル・チャン先生だ。彼が13日のGIVESの会議で、この学校の英語教師・ジョン・ジャミソン先生（アメリカ人）にFIWCの活動を紹介してくれたのだ。

ジャミソン先生と商業英語学科の学生11人に、西尾が空き教室でキャンプの説明をした。先の2大学では、「なぜわざわざ中国でボランティアをするのか」とケゲンそうにきく学生が多かったが、ここ商学院では「ボランティアをするのは大事だ」という意見

が多かった。

このことはジャミソン先生がGIVESのメンバーであることと無関係ではないだろう。梁さん（4年生）によると、ジャミソン先生はいままで出会った中でいちばんいい先生で、人権についても教えてくれる。庄さん（2年生）は女性の社会的地位向上の問題に関心があるという。また潮州出身ですこし日本語を話す周さん（4年生）は、身体の不自由な人のために自分ができることをしたいと語った。

スタッフとのメールのやりとりによって、ハンセン病の感染に対する不安が徐々になくなった梁さん・庄さん・周さんは、キャンプに参加するといっている。

*GIVES

（Guangdong International Volunteer Expatriate Service 広東国際ボランティアサービス団体）

1995年設立。孤児院へのオモチャや衣服の寄付と医療援助、身体が不自由な人の自立支援のためのリハビリテーションセンターへの義足・車椅子などの寄付、ハンセン病快復者の支援などをおこなっている。



朝から餃子を食べる西尾とヴィアンさん

中国・リンホウ園 ワークキャンプ 参加者募集

このキャンプは、FIWC 関東委員会とつて、韓国、フィリピンに続く第三国でのキャンプ開催になります。

このリンホウ園は、便宜的にいうとハンセン病快復者の療養所です。近年、経済発展が目覚ましい中国ですが、この村の生活状況は極めて厳しいものがあります。その厳しさの原因には、ここがハンセン病の療養所であるという理由が、紛れもなくあります。けれどもキャンプを開催するにあたって、その「ハンセン病の療養所」という事実をとりあえずカッコに入れたいと思えます。この中国のキャンプも「不便な生活を強いられた人々の状況を何とかしよう!」といった動機から始まる、バングワやネパールでのキャンプと同じものからスタートしたいと思えます。

9月に下見としてリンホウ園を訪れ、幾人かの在園者と通訳を介して話をしました。

「何が必要って、いっぱいありすぎて思いつかんがな。」

トイレがない。フロアがない。雨漏りがする。体が不自由なので料理したり、水をくんだりするのを手伝ってくれる人がいると助かる。

苦笑いのあと、彼らはそう私たちに言いました。

このキャンプはそこからはじめたいと思います。

「不便で困っている。」

そうこぼす人に対して、自分たちにできそうなことがある。

「ほな、やりましょう! 一緒に寝泊りして、一緒にうまいメシでも食べて、ご飯食べたら、酒でも飲んで、あなたはあなたの好きな歌を歌い、私は私の好きな歌を歌い、そんなことをしながら、いっしょに何かやりましょう!」

このキャンプがそんなキャンプになればいいと思います。

私たちの前にいる人たちが「らい」という病を病んで、社会から排除された人たちだということは、とりあえず考えないようにしたいと思います。意識的に考えないようにするのはなく、そんなことはまずはどうでもいいこととして、片隅に片付けたいと思えます。

このキャンプは、らい者とそれに救いの手を差し伸べる者たちとの関係からなる活動ではなく、「わしら、ちょっと困ってるんやけど、なんとかならんかな?」

「ほな、手伝いまっせ。どうせわしもヒマやし」

そんなありふれたやりとりのすえに、なりゆきでやってしまいう活動、そんな活動になればと思っています。

私たちと一緒にキャンプをする人たち。ハンセン病快復者、ハンセン病快復患者。ずっと、いわれのない差別を受けてきた人たち。呼ぼうと思えば、いろんな言葉があります。

私たちがやるうとしてるキャンプ。ハンセン病啓発活動、ハンセン病患者生活改善活動、貧困撲滅活動。人権回復の根活動。呼ぼうと思えば、いろんな言葉があります。

大儀名文は隅にどけとこうと思えます。「社会的に意味あることをしてる」という魅力ある気分には惑わされないうところに避難します。

「国が! 社会が! 世間が! まっ、マチガッテいるのだあーあーあー!!」

「正義感」という心地よい「酔い」にも遠ざかりたいと思えます。「正義感」という危険で暴力的なドラッグではなく、薄くてぬるいチンタオビールに酔うキャンプでありたいと思えます。

彼らは「ハンセン病快復者」である前に、名前のある一個の人間です。ハンセン病という病気は、その人間がもっていた一つの過去の付随物です。そんな過去の付随物に振り回されるキャンプではなく、その本体である人間が主役となるキャンプでありたいと思えます。彼らの傍らで一緒に生活す

中国ワークキャンプ下見報告

2002年9月

2002年10月19日発行

2002年10月26日第2版発行

フレンズ国際労働キャンプ(FIWC) 関東委員会 委員長 西尾雄志

編集: 茂木亮 (茂木新聞社)

編集: 原田僚太郎

中国リンホウ園ワークキャンプ 参加者募集

2002年11月5日~18日(予定)

メインワーク: トイレ建設、参加費: 約15万円(予定)

募集人員: FIWC 10名+中国キャンパー 10名

2002年11月 トイレ建設キャンプ

2003年2~3月 水道供給システム建設キャンプ(井戸水を浄化し、水道管を設置する作業)

2003年8月 在園者の新居建設キャンプ(長期キャンプ)

中国リンホウ園ワークキャンプ

報告会

2002年
12月15日(日)
15:00~17:00

会場: 早稲田奉仕園
日本キリスト教会館6階フォークトルーム

カンパの お願い

郵便振替口座:
00170-2-565117

加入者名:
FIWC 関東委員会

モグネット
www.magnet.org

モグネットでは中国リンホウ園ワークキャンプの情報がさらにもりだくさん!!
http://www.magnet.org/